しず老施協

No. 77

令和８年10月 発行

静岡県老人福祉施設協議会

〒420-0856　静岡市葵区駿府町1-70
静岡県総合社会福祉会館内

TEL.054-653-2311 FAX.054-653-2312
E-mail:sizurosi@vesta.ocn.ne.jp
http://www.shizu-roshikyo.jp/

巻頭言



変わる時代、変わらない想い

静岡県老人福祉施設協議会
副会長　川　島　理　恵

令和８年度より、静岡県老人福祉施設協議会副会長を拝命いたしました。身の引き締まる思いとともに、現場で培ってきた経験を生かし、皆様と共に静岡県の高齢者福祉の発展に力を尽くしてまいります。

大役を前に改めて自問したとき、たどり着いたのは一貫して大切にしてきた一つの思いでした。それは、「どのような状態になってもその人の尊厳を守り、その人らしく最期まで生きることを支える」ということです。その思いを胸に、利用者様やご家族、地域の方々、そして仲間と向き合ってきた年月は、私自身が多くのことを教えていただいた、かけがえのない時間でした。施設長となった今も、日々の相談に向き合う中で、人の思いや喜び、悲しみに触れ、学びを深めています。

以前入居されていたお母様の面会に毎日のように来られていたご家族が、後に自治会長となり、地域の秋祭りで御殿屋台や大太鼓とともに、子どもたちや大勢の若衆を連れて施設へ慰問に訪れてくださいました。挨拶の冒頭の「南風の皆さん！ただいま！」という一言に、胸が熱くなりました。介護施設は単にサービスを提供する場所ではなく、利用者様やご家族の人生の一部となり、退所後も「また帰ってきたい」と思っていただける場所でありたいと、そんな思いを強くしました。

もう一つ、大切にしている言葉があります。「信じられぬと嘆くよりも、人を信じて傷つくほうがいい」という歌の一節です。共に働く仲間を信じ、要介護状態になってもその人らしく生きようとする力を信じ、介護に悩みながらも家族を大切に思うご家族の気持ちを信じてきました。人を信じることで傷つくこともあります。それでも、人を信じることを諦めたくないと思っています。「介護という仕事に、私の方が育ててもらった」――これが今の私の実感です。だからこそ、いただいた学びやご縁を、仲間や次の世代へつないでいきたいと考えています。

現在、物価高騰や人材不足、外国人介護人材の受け入れなど、私たちを取り巻く課題は山積しています。ICT活用や業務改善など「変えるべきこと」は多々ありますが、それらは全て利用者様の尊厳を守るための手段です。どれだけ時代が変わろうとも、人との関わりや笑顔を大切にする『介護の本質』は揺らいではなりません。

一施設だけで抱え込むのではなく、互いの実践や知恵を持ち寄り、人を育て、支え合うことが時代を乗り越える力になります。副会長として現場の声を大切にしながら、施設や人の垣根を越えたつなぎ役となり、静岡県全体の高齢者福祉をより良いものへと進めてまいります。変えるべきものには勇気を持って挑み、守るべきものは皆で大切に守る。皆様のお力をお借りしながら、共に歩んでまいります。

片山さつき財務大臣への要望活動
～次期介護報酬改定に向けて～

自民党静岡県連の良知淳行幹事長（県議会自民改革会議代表）様のご尽力により、９月19日（土）に静岡市内のホテルにおいて、片山さつき財務大臣への要望活動を行いました。

本会からは、石川相談役、増田会長をはじめ理事、監事、委員会委員など32名が参加し、増田会長から要望書「次期介護報酬改定に向けての要望等について」を提出いたしました。

増田会長からは、物価高騰による収益性の悪化に加え、他業種における賃上げによる介護分野からの人口流出に歯止めがかからず、人材確保も困難な状況にあるなど、個別施設の経営努力だけでは、もはや限界に達しているとしたうえで、次期介護報酬改定において大幅な基本報酬の引き上げがなければ安定した事業運営を継続することは難しく、良質な介護サービスを維持できないと訴えました。

また、物価高騰への対応、介護人材（特に外国人介護人材）確保、介護ＩＣＴ化等の生産性向上、特別養護老人ホームの原則要介護３以上の入所要件撤廃、養護老人ホーム及び軽費老人ホームの支弁額改定等についても幅広く意見交換を行いました。

※要望書全文はこちらから⇒



左から増田会長、片山さつき財務大臣



要望活動の様子



前列中央が片山さつき財務大臣、その左横が良知淳行自民党県連幹事長、右横が増田会長

令和９年度予算要望活動の報告
～静岡県・静岡市・浜松市・自民党介護議連への要望～

相談役・正副会長が８月26日（水）に県庁を訪問し、塚本副知事・高須健康福祉部長と面会し、県知事あての令和９年度予算要望書を提出するとともに、意見交換を行いました。また、同日午前には、静岡県総合社会福祉会館において静岡県健康福祉部福祉長寿局（局長、参事、課長）との懇談会を開催し、忌憚のない意見交換が行われました。

その後、静岡市、浜松市、県議会自民党「安心して過ごせる高齢者施設を考える議員連盟（以下「自民党介護議連」）に対して順次要望活動を行いました。

今後も、会員の皆様の声を行政や議会等に届けるため、積極的な要望活動に努めてまいります。

【静岡県副知事への要望】



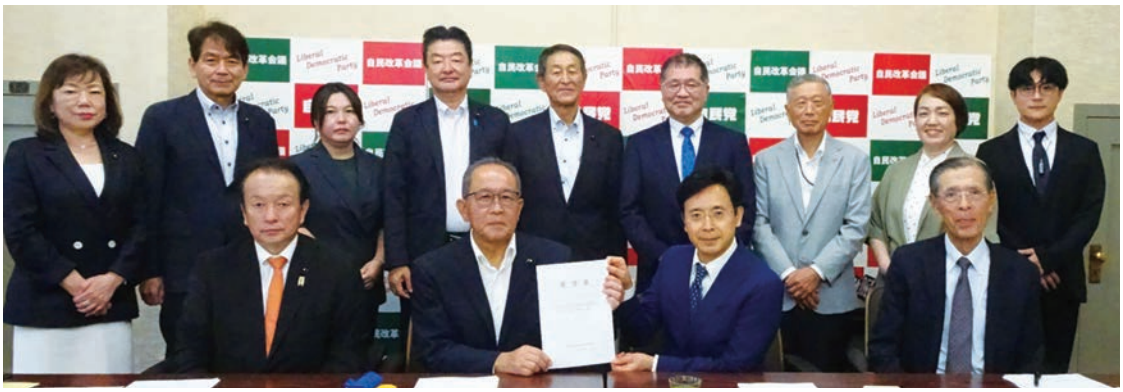
左から前田副会長、大塚副会長、増田会長、塚本秀綱副知事、石川相談役、川島副会長

【静岡県健康福祉部長への要望】



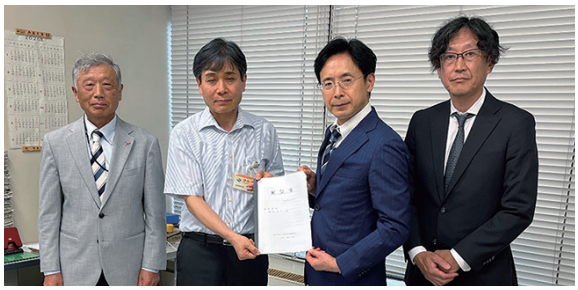
左から高須徹也部長、増田会長

【自民党介護議連への要望】



前列左から良知淳行県議、鈴木澄美県議（議連会長）、増田会長、石川相談役、後列左から西原明美県議、飯田末夫県議、望月香世子県議、市川秀之県議、宮沢正美県議、大塚副会長、前田副会長、川島副会長、三井企画経営委員長

【静岡市保健福祉長寿局長への要望】



左から前田副会長、千須和健一局長、増田会長、千葉静岡市老人福祉施設連絡協議会会長

【浜松市健康福祉部長への要望】



左から水谷浜松市社会福祉協議会老人部会会長、新谷直幸部長、増田会長、川島副会長

※主な要望内容は次のページのとおり。

＜主な要望内容＞

Ⅰ　物価高騰への対応について

物価高騰が続く中でも、最も深刻に介護施設経営を圧迫しているのは食費（原材料費･燃料費･委託費等）であり、物価高騰から介護報酬改定までのタイムラグが施設全体の経営に打撃を与えている。現場の実態を反映した基準費設定や物価高騰への緊急的な支援の継続を要望

Ⅱ　介護人材の確保・養成・定着に向けた取組について

・ＷＥＢ求人機能の強化、個別キャリア相談の充実等による社会福祉人材センターの機能強化
・小・中・高校生への介護の仕事への理解促進のため、介護の魅力の啓発や効果的な情報発信
・外国人介護人材は受入れ後の定着が課題。国際人材サポートセンターの機能強化による支援

Ⅲ　福祉施設での生産性向上の推進について

介護事業所の生産性向上モデル事業の継続実施と、モデル事業に採択された事業所の知見や先進事例について、県内全域への波及効果を高める取組を要望

Ⅳ　福祉施設の老朽化への対応について

大規模修繕工事補助制度について、建築費の高騰を考慮した必要な予算確保を要望

Ⅴ　防災対策の充実・強化について

令和８年熊本地震をはじめとする度重なる大規模地震や、全国で頻発・激甚化する豪雨災害等の教訓を踏まえ、各施設・事業所が被災時において地域の福祉資源としての機能を発揮するため、ＢＣＰの実効性向上、福祉避難所の機能維持・強化、ＤＷＡＴ派遣に関する支援強化を要望

Ⅵ　特別養護老人ホームの運営について（特養委員会）

待機者数の減少が固定化し、待機者確保が深刻化しており、特養の入所要件である「原則要介護３以上」の撤廃を要望。また、協力医療機関連携加算の算定率向上を図るため、協力医療機関の確保と広域マッチング支援、ＩＣＴ・ツール活用による事務負担の軽減と標準化等を要望

Ⅶ　養護老人ホームの運営について（養護委員会）

入居稼働率は71.7％と低迷しており、潜在的な措置該当者が適切に把握・保護されていない懸念がある。また、物価高騰が続く中、従来の経済的要件（市町村民税所得割非課税等）では、生活困窮の高齢者を救済しきれない実態がある。市町に対して「災害その他の事情」による要件の弾力的運用の促進や、措置制度の適切運用に関する県の助言を要望

Ⅷ　軽費老人ホームの運営について（軽費委員会）

食費について最大で１日100円の値上げが認められたが、食材費をはじめランニングコストが高騰し続け、施設運営に大きな負担となっている。生活費基準額は、地域の実情や物価変動、その他事情を総合的に勘案して都道府県知事が定めるとされている。県の権限と責務において、食材価格や施設運営の実態を踏まえた合理的な基準に基づく再検証・見直しを要望

Ⅸ　在宅サービス事業の運営について（地域ケア委員会）

総合事業についての各地域の認定状況に関する実態調査、有料老人ホーム専用となっている事業所以外の訪問介護の収支状況の実態調査、新人ケアマネジャーへの「育成手当」支給を要望



静岡県福祉長寿局との懇談会

Ⅹ　厚生労働省への介護保険制度変更要望について

介護職員の処遇は、こども・障害福祉分野を含む他業種に比べ低賃金であり、介護報酬の水準や現場の負担・責任に見合わない評価がある。また、物価上昇局面において介護報酬改定の遅れにより人件費・運営コスト増に対応できない厳しい状況にあり、３年に一度の報酬改定では間に合わず、物価スライド制の導入や臨時の報酬改定の実施が必要。厚生労働省に対して、介護現場と一体となって制度見直しに向けた要望活動をお願いする。

※要望書（全文）　こちらから⇒

特集1

【広報委員会給食アンケートの実施】



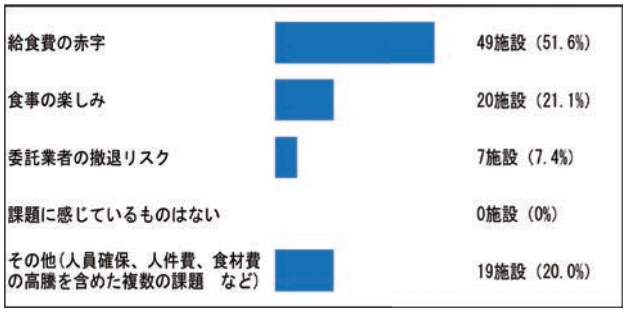
広報委員会副委員長
羽鳥の森　統括
根　城　隼　太

2026年８月に食費の基準費用額が引き上げられました。また静岡県では軽費老人ホームでも生活費（食材料費及び共用部分に係る光熱水費の徴収費目）が引き上げられています。長らく老施協でも要望された食費改定がようやく動いたといえます。しかし、依然として食材費の高騰、厨房職員の人員不足、給食会社の撤退など高齢者施設を取り巻く不安の影は色濃く、日々の食事を如何に保つかという憂慮は、なお我々の頭上に横臥わっております。

この度広報委員会では「給食についてのアンケート」を実施しました。ご多忙の中、ご協力頂きました皆様には御礼申し上げます。今回、寄せられた95施設の回答は、現場の葛藤を如実に物語る内容となりました。アンケートで課題の第一に挙げられたのは「給食費の赤字・コスト高騰」でした。全体の61.1％にあたる58施設が課題に挙げています。次いで「食事の楽しみや品質の維持」が22施設で23.2％、「委託業者の撤退リスク」が７施設で7.4％、「人材確保・人員不足」が６施設で6.3％と続きます（「その他」で回答いただいた類似の回答も含む。）。食材費や人件費の高騰という避けがたい現実と、限られた予算のなかでいかに健全な運営と食事の質を両立させるかという二項対立に頭を抱える施設が多くあります。多くの施設が「食事の楽しみ」を課題として挙げていますが、質を向上するためにも、人手不足やコスト高の問題は関わってきます。クオリティ・コスト・労働力。トレードオフの関係にあるこの三つの課題は我々にとって三位一体に解決すべき問題と言えます。

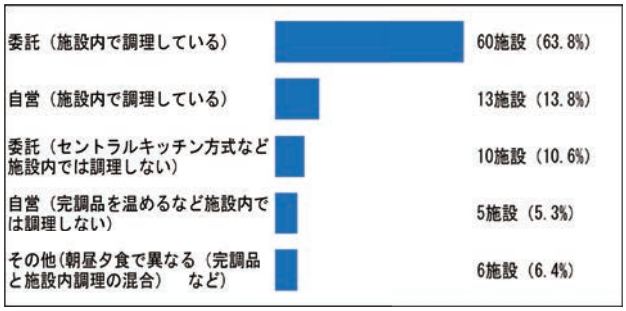
「給食が良好に運営できているか」という問いに対し、「できている」と答えたのは回答中40施設で42.1％でした。半数を超える55施設、すなわち57.9％が「できていない」「どちらともいえない」と回答しています。「どちらともいえない」と回答した施設の中には「課題は感じているが、解決しようがない」という諦念もあったように思います。

〈給食について最も課題と思われることは何ですか？〉



食費改定という追い風を受けつつも、膠着した状態を如何にして打ち破るのか、今回集まった回答の中には、委託会社の変更、朝夕を完全調理品とし昼食のみを施設内調理とするハイブリッド方式の導入のように「委託の形態」を変更したもの、米の直接買付やB級野菜の買付、食材を施設で自家栽培するなどの「材料費を抑えた工夫」など多くの工夫事例が寄せられました。

〈調理業務の形態〉



今後、広報委員会ではアンケートにご回答頂いた施設のご助力を得て給食に関する施設長座談会を企画しています。次回のしず老施協では施設が困難を乗り越えるために奮闘努力する生の声を聞きながら現状打開の真髄に迫ってみたいと思います。次号をお楽しみください。



特 集２

第15回高齢者福祉研究大会を振り返って

～正解は一つじゃない、だから面白い～



高齢者福祉研究大会実行委員会副委員長
特別養護老人ホームあしたかホーム
施設長　深　沢　康　久

令和８年９月16日、沼津市の「プラサヴェルデ」におきまして、静岡県老人福祉施設協議会主催の第15回静岡県高齢者福祉研究大会が開催されました。今回は、数年ぶりに沼津市で行う大会となり、地元の実行委員として特別な緊張感と大きな期待を胸にこの日を迎えました。

当日は、降りしきる雨の中、昨年度同様、総勢700名を超える非常に多くの皆様にご来場いただき、会場となったプラサヴェルデは、外の雨模様を吹き飛ばすほどの熱気と活気に包まれました。昨年の浜松大会での「all静岡で！」という熱い思いを引き継ぎ、今回も福祉を志す多くの仲間が沼津の地に一堂に会したことは、本当に嬉しい限りでした。



会長挨拶

コンベンションホールAにて、本大会は厳かに幕を開けました。開会式では、増田会長より、日頃の業務への労いと、本大会にかける熱い想いが語られた開会挨拶が行われました。続いて、ご多忙の中駆けつけてくださった静岡県健康福祉部の高須部長様より、心温まる来賓祝辞を頂戴いたしました。その後、日頃の功績を称える表彰式が執り行われました。今年度は、永年勤続職員表彰180名、協力団体感謝状１団体の皆さまが受賞され、東部・中部・西部のそれぞれの代表として出席いただいた、みはるの丘浮島の成川様、聖ヨゼフの園の山﨑様、大東苑の池本様への温かい拍手で祝福されました。その後、ケアフォトコンテストの授賞式と、その後コンテスト応募作品のスライドショーも上映され、会場が大きな拍手に包まれました。

静岡ケアフォトコンテスト2026優秀賞受賞施設
特別養護老人ホームこもれび、特別養護老人ホーム晃の園、特別養護老人ホームみはるの丘浮島



今年度の受賞者の皆様

記念講演では、医療法人社団真養会きせがわ病院副院長の大坂巌氏をお迎えし、「寄り添うための対話術」をテーマにご講演いただききました。１時間の心動かされる大坂先生の講演は、あっという間に終了し、もっと聴いていたい気持ちになりました。私たち介護従事者にとって、日々の実践の根底を揺り動かされるような、深く心に染み入る内容でした。

先生から学んだ「言葉は薬になる」。介護の現場では、利用者の身体的な支援だけでなく、不安や寂しさ、人生観やその人らしさに寄り添うことが求められます。一人ひとりの気持ちを大切にした声かけや対話を実践していきたいと思いました。



大坂巌氏による記念講演



満席の会場が静かに聞き入る

〈優秀賞受賞施設〉

ブロック	発表施設	発表タイトル
A	小規模多機能ホーム　丸子の里和るつ	地域で暮らし続けるをあきらめない支援 ～本人の不安、戸惑いに寄り添う～
B	特別養護老人ホーム　羽鳥の森	レクリエーションの充実による利用者の意欲向上と生活リズム改善への取り組み
C	あしたかホームホームヘルプサービス	セルフネグレクトの実態と支援 環境整備でセルフネグレクトは改善されるのか
D	土肥戸田ホームヘルプサービス	“当たり前をやめた”訪問介護DXの挑戦 ～ペーパーレス化で生まれた時間と価値～
E	はらデイサービスセンター	地域貢献活動ちょっくらの挑戦！ ～「役割」によるBPSD抑制効果の検証～
F	特別養護老人ホーム　片岡杉の子園	「竜巻‼」～竜巻被害による停電発生時の対応～

午後からは、会場を各フロアに分散し、３部構成（第１部～第３部）による研究発表が行われました。今回は全６ブロック（A～F）に分かれ、多角的なテーマのもと、各施設が知恵を絞り、実践を重ねてきた成果が堂々と発表されました。

Aブロック「中重度ケアの実践」、Bブロック「中重度ケアの実践、暮らしを楽しむ工夫」、Cブロック「暮らしを楽しむ工夫、多職種協働・連携の実践」、Dブロック「魅力ある職場づくり」、Eブロック「選ばれるサービスを目指した取組」、Fブロック「魅力ある職場づくり、社会福祉法人における取組」どの会場も発表者の緊張感あふれる、しかし自信に満ちた発表で現場の努力、そして笑顔が詰まった素晴らしい内容ばかりでした。その中でも課題の発見や成果の実証性・取り組みの有効性などが高く評価され、各ブロックから６チームが優秀賞に選ばれました。回を重ねるごとに研究の質や発表技術が向上していることを肌で感じ、静岡の高齢者福祉の未来は非常に明るいと、確信を深めることができました。



熱気あふれる分科会発表の様子

昨年に引き続き、会場内では介護機器展示会と福祉図書販売が開催されました。今回は１階、３階、４階の各展示スペース等を活用し、40社を超す多くの企業にご出展いただきました。



最新の福祉機器について、熱心に担当者に質問する参加者たち

最新の見守りシステムや移乗リフト、ICTツールなどの様々な介護テクノロジーを彩る最新グッズが所狭しと並びました。実際に機器に触れ、メーカー担当者から直接説明を受けることで、自施設での導入イメージが非常にリアルに膨らんだ参加者も多かったのではないでしょうか。

本大会が大きな混乱もなく、大盛況のうちに滞りなく終了できましたことは、偏に、日々の過酷な業務をやりくりしながら研究発表の準備をしてくださった発表者の皆様、遠方から足を運んでくださった参加者の皆様のおかげです。そして、数ヶ月前から影の功労者として細やかな準備に奔走してくださった老施協事務局の皆様、その他すべての関係者の皆様の多大なるご尽力に、心より感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。来年の第16回大会は、静岡市グランシップでの開催が予定されております。さらにパワーアップした皆様とお会いできることを楽しみに、また１年、日々のケアに邁進してまいりましょう。

特集３

【災害時に活用可能な空調アイテム】

被災地に導入した機器について



広報委員会委員長
トマト館
倉田　聡

日頃から【しず老施協】をご愛読いただき誠にありがとうございます。今夏は震災後に避難生活をしていた高齢者が熱中症で亡くなったケースが報道されるなど、真夏の熱中症対策の重要性が再認識されています。広報委員会では被災時や停電時の熱中症対策について、袋井市の産業機械メーカー、静岡製機株式会社にお話を伺ってきました。同社の気化式冷風機は被災地でも熱中症対策に使用されています。

倉田：被災時の熱中症対策が大きな課題となっております。特に先日の熊本地震では熱中症で亡くなられた方も多く、お悔やみを申し上げるとともに改めて熱中症対策の重要性を再認識した次第です。停電が発生した際、広いスペースでの空調確保についてはどのような対策を講じるべきでしょうか。静岡製機（株）の開発している気化式冷風機は災害時に被災した自治体等にも納品されていると聞き、見学に伺いました。

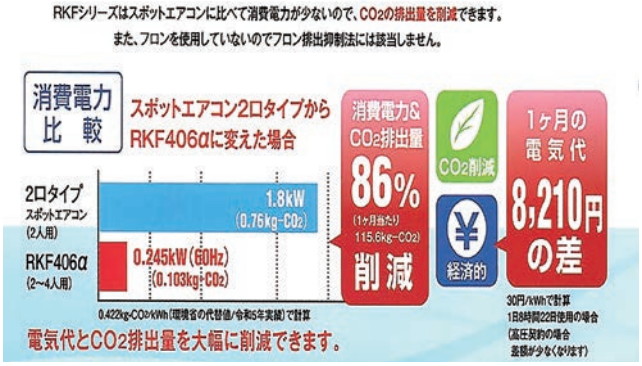


袋井市の静岡製機株式会社にお邪魔しました！

静岡製機：最近は防災用品として冷風機の関心が高まっております。広い場所を避難所にしている場合、スポットエアコンでは発電機の容量が足りず稼働できなかったり、排熱ダクトの処理が難しく隙間から外気が入り冷房効果が下がってしまうなどの課題がありました。

倉田：確かにスポットエアコンは消費電力と、排熱の問題もありますね。その点、気化式冷風機にはどのような強みがあるのでしょうか？

静岡製機：省エネ性が強みです。水を通したエレメントに風を当てる気化式の仕組みを採用しており、消費電力はスポットエアコンの約７分の１で済みます。非常用発電機やポータブル電源でも十分に動かせます。人気のスタンダードクラスRKF406αは風が８m先まで届き、上下左右のスイング機能で広範囲をカバーできます。



メーカー資料より抜粋

倉田：消費電力が少ないことは災害時に心強いです。クールエリアが８mというのも広範囲で良いですね。気化式冷風機は水を入れるだけで冷風機能が使えるのでしょうか？

静岡製機：バケツなどでの給水はもちろん、水道に直結しても使えます。容量は50Lほどで、１時間に約５Lの水を消費します。気化式なので周囲が濡れたり錆びたりする心配はありません。

倉田：日本の夏は湿度が高いですが、冷却性能は維持できるのでしょうか？

静岡製機：湿度が低ければ吹出温度で９度ほど下がります。高い日でも体感で５度ほど下がります。直接風を当てることで十分な涼しさを感じていただけます。ただ冷風機は室温自体を下げるわけではないので、エアコンのように部屋全体が涼しくなるものではありません。この点は注意が必要です。冷風機は広い空間や開放空間などのスポットエアコンでは効果が発揮しにくい場所で最も効果を発揮します。

倉田：スポットエアコンと冷風機で使い方に一長一短があるのですね。

静岡製機：１時間に５Lの水を気化させるので、狭くて密閉した空間では湿度が上がってしまい冷風効果が弱くなります。あと狭い場所では稼働音も気になると思います。

倉田：狭い場所ではスポットエアコンの方が効果が高いのですね。



凄く涼しい！冷風を体感する倉田広報委員長

静岡製機：スポットエアコンの後部に冷風機を設置して、スポットエアコンから出る排気熱を冷風機で冷却するなど両機を併用することでお互いの欠点をカバーして使う方法もあります。

倉田：災害時には万能なアイテムというものがなく、使う側の工夫次第なのですね。平時からも活用できれば購入検討時のハードルが下がると考えているのですが、いかがでしょうか？

静岡製機：平時でも役立ちます。例えば厨房など熱がこもりやすい場所でエアコンと併用したり、ホールなどの広いスペースで補助的に活用されたりしています。エアコンの設定温度を２～３℃高めにし、この冷風機を併用することで節電につながります。

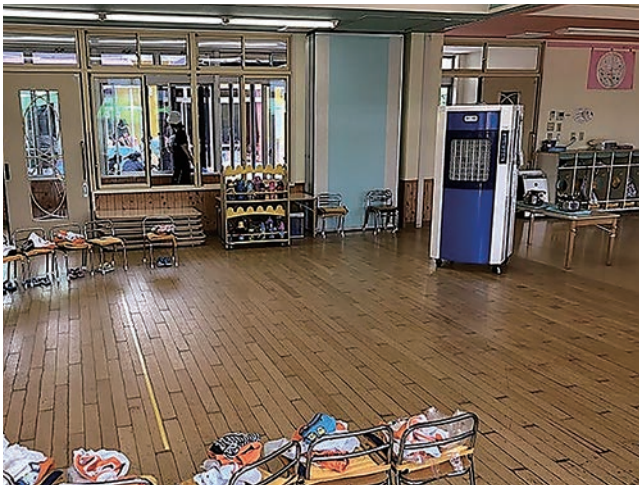


消防対策本部設営訓練でも静岡製機の気化式冷風機が使用された
写真提供：静岡製機株式会社

倉田：室温を冷やし過ぎず風で補えば節電にもなるし、ご高齢者にも優しいですね。エアコンのように空気が乾燥しすぎないのも魅力だと思います。高齢者施設の中でもホールやデイサービス、脱衣場、厨房など平時に活用できる場所は多々ありそうです。価格帯や耐久性についてはいかがですか？

静岡製機：価格は大きさによって15万～80万ほどです。具体的な金額は販売店にご確認ください。樹脂で作られた海外製と異なり、弊社の製品は鉄板構造なので修理がしやすいのが特徴です。修理しながら業務用として長く使っていただけます。メンテナンスも簡単で、１～２年を目安に気化エレメントを交換するくらいです。動作終了時にエレメントをしっかり乾かす必要がありますが、自動乾燥機能も付いています。ニオイ対策として塩素系の消臭タブレットもご用意しております。ただ消臭タブレットは塩素系の臭いがしますので、気にされる方はいるかもしれません。

倉田：メンテナンスがシンプルなのも現場としては助かります。実際に自施設で効果を試してみたい場合は？



気化式冷風機はこども園でも導入されている
写真提供：静岡製機株式会社

静岡製機：希望施設には、担当者がうかがってデモを行っております。災害時を想定した研修などで実際の風量や涼しさを体験してみてください。

今回は静岡製機様にお邪魔し、高齢者施設における冷風機の可能性についてお話を聞きました。被災時の熱中症対策は施設にとって急務の課題といえます。災害対策は設備備品の備えと運用の工夫が鍵となります。自施設の環境に合わせた最適な対策を見出すうえで、本取材の内容が皆様の参考になれば幸いです。



支部紹介（中部支部）

組織人基本スタンス構築研修 ～組織づくりは、まず核となるリーダーから育成する～



特別養護老人ホーム
小鹿なでしこ苑
施設長　増田　信

令和８年３月に行われた中部支部総会の施設長研修にて「組織基盤の構築（組織人育成）」をテーマとした講義を受けました。本来は３日間かけて学ぶ内容を２時間半ほどでお願いしたため講師の方が伝えたかったことの一部でしかなかったとは思いますが、それでもロジカルに「組織作り」の必要性を学ぶことができました。また、これまで各施設長様が考え、実行してきた組織作りに対する答え合わせもできたのではないかと思います。これまでは、収益を上げるためにも「稼働率を上げよ」、「コストを削減せよ」と言われてきましたが、大事なのは「収益を上げ続けられるシステム（組織）」を作るということで、そのためにも「組織作り」を学ぶ必要があるということに気付きました。



その後、懇親会の席で「組織作りの話は、管理者が聞くのはもちろん大事だが、次世代を担う者が学び、管理者の右腕、左腕となり現場と繋ぐHUBとなってくれたら、その方が効果あるのでは…」、「主任クラスの職員に聞かせることで彼らの意識を変え、より積極的に能動的に動けるようになるのではないか…」、「組織作りを意識的に行える職員が増えれば間違いなくいい施設になるはず…」と盛り上がり、中部支部長に懇願し、次世代を担う職員を対象とした３日間コースの研修が開催される運びとなりました。



４月、参加定員は25名以内、１施設３名までで募集をかけたところ、瞬く間に定員に達したことからも各施設長さんの意気込みが感じられました。また、初回開催日である６月12日は私も参加させていただきましたが、参加者の皆さんの気概を肌で感じることができました。２日目である７月24日は、初っ端からアクセル全開の講義が始まり、17時までの長丁場でありながらも最後まで誰も減速することなく走り続けました。目的はただ一つ、それぞれが所属する法人のために実績を残すことです。最終日である11月13日はその報告会になると聞いています。ぜひ施設長様方にはオブザーバーとして参加していただけたらと思います。

ところで、人口減少、少子高齢化、物価高騰などの煽りを受けて、職員の採用に苦慮している施設がほとんどのなか、毎年コンスタントに採用できている施設もあります。



では、入所相談がひっきりなしにあり、常に満床の施設と、閑古鳥が鳴いている施設の違いは何か。今年も新卒が採用できなかったと嘆いている施設と、毎年コンスタントに人が採用できている施設の違いとは何でしょう。

「立地の良し悪し？」、「建物が新しいとか、設備が整っているから？」、「給料がいいから？」…もちろん、それらも一因かもしれませんが、本当に解決しなければならない問題はそこではなく、「組織風土」と「組織人」に関係する部分なのだと思います。どの職場にも必ずいるトキシック・ワーカー（有毒（有害）な社員）。なかでもブリリアント・ジャーク（優秀だけど嫌な奴）と言われる職員の存在。トキシック・ワーカーを一人解雇することで節約できるコストは、優秀な職員を一人採用することで得られる価値の２倍以上に相当するとも言われています。組織作りをするうえで避けて通れない問題がここにあります。

良い組織、魅力的な組織とは、外部評価が高く、高い業績を生みだす組織です。

また、職員満足度も高く、離職率が低い組織です。

しかし、良い組織が勝手に出来上がることはありません。ピーター・Ｆ・ドラッカー氏はこう言っています。「組織が自然に発達することはない。組織の成果（業績）を生みだすためには、まず、組織の基盤を固めることから始めなければならない」と。私は、特養はセーフティーネットの一つだと考えています。だからこそ、絶対に特養は潰れてはいけないのです。生活困窮者を守るためにも施設を、そして老施協をみんなで強い組織にしていきましょう。



連合艦隊総司令官「山本五十六」の名言

◆やってみせ、言って聞かせて、させてみて、褒めてやらねば、人は動かじ。

◆話し合い、耳を傾け、承認し、任せてやらねば、人は育たず。

◆やっている、姿を感謝で見守って、信頼せねば、人は実らず。

組織を作る、人材を育成するにはどう部下と関われればいいのか、大変参考になる言葉だと思います。まずは、素敵なリーダーから育てていきましょう。



職　員　紹　介

各施設の職員にお聞きしました。

Q　①　氏名・職種　②　最近あったうれしいことは　③　好きなタレント、スポーツ選手
④　もし宝くじで１億円当ったら何に使いますか　⑤　今後どんな施設（職場）にしていきたいですか
⑥　施設を選んだきっかけや決め手は何ですか

特養 伊豆高原十字の園

（伊東市）



① 坂本　光（介護職員）
② お台場のユニコーンガンダムを最後に見れたこと。
③ ポルノグラフィティさん
④ 父と母と弟が欲しいものを沢山買ってあげたいです。
⑤ 職員もご利用者も笑顔溢れる施設にしていきたいです。
⑥ 父が働いていたので。一緒に働いて親孝行もできたらいいなと思っています。

特養 沼津フジビューホーム

（沼津市）



① 高田　恵里佳（介護職員）
② BTS のライブに行ったこと
③ BTS
④ 家のローン、旅行、貯金
⑤ 職員も笑顔であたたかい雰囲気の施設
⑥ 実習をやらせてもらい、職員の雰囲気とご利用者様の笑顔を見て決めました。



軽費 ケアハウス桜花

（静岡市葵区）



① 望月　昭子（生活相談員）
② 大学生時代の友人とばったり会ったこと
③ ヤクルトスワローズ 内山壮真選手
④ 豪華客船で世界一周旅行
⑤ 「この施設を選んで良かった。ここで暮らせて幸せ」と感じていただける施設にしたい。
⑥ 見学した際に職員がいきいきしていたから



養護 清水松風荘

（静岡市清水区）



① 渡邊　愛梨（支援員）
② ディズニーシーに行ったこと
③ 坂本勇人（プロ野球選手）
④ 半分旅行、半分貯金
⑤ ご利用者・職員全員が笑顔の絶えない施設にしたい。
⑥ 実習でお世話になった時、職員の皆さんが明るく楽しく働いていて、また、先進的な取り組みをしている、この法人で働きたいと思い就職する事を決めました。

特養 明　和　苑

（袋井市）



① 小澤　勇太（介護主任）
② 新しい推しを見つけた事
③ 佐藤輝明（プロ野球選手）
④ 世界のお酒を飲み歩き
⑤ 利用者様がその人らしく生活出来る環境作りをしていきたいです。
⑥ 同じ法人に勤めていた、叔母の勧めです。



特養 かささぎ苑

（浜松市中央区）



① 鈴木　諭（生活相談員・介護支援専門員）
② 母の最期を兄弟で看取れた事です。
③ 大谷翔平選手。
④ 預金や投資信託
⑤ アットホームで笑顔が絶えない、明るく元気な施設にしたいです。
⑥ 少人数の施設なので、入所者をより近くで援助できると感じ入職を希望しました。



どうぞよろしくお願いします

会員施設の紹介

特別養護老人ホーム　シャローム富士川



【一言キャッチフレーズ】
地域とともに、感謝の心を大切にします

【施設概要】
・施 設 名：特別養護老人ホームシャローム富士川
・施設長名：外山　和矢
・運営法人：社会福祉法人　富士厚生会
・理　　念：人間としての尊厳を優先します
　常にケアの工夫を重ねます
　福祉マンパワーの育成に努めます
　施設の環境整備を進めます
　優しく温かい心を大切にします
・開 所 日：平成17年５月１日
・所 在 地：富士市北松野1071
・提供サービス：特別養護老人ホーム／短期入所生活介護／通所介護／居宅介護支援事業所／在宅介護支援センター
・定 員 数：特養80名／短期入所10名／通所30名
・施設ＨＰ：https://www.fujikoseikai.or.jp

※施設ＨＰはこちらから ⇒

特別養護老人ホーム　丸子の里



【一言キャッチフレーズ】
「丸子の里は今日も笑顔であふれています♪」

【施設概要】
・施 設 名：特別養護老人ホーム丸子の里
・施設長名：八木　和真
・運営法人：社会福祉法人　静和会
・理　　念：「すべての人に笑顔を」
・開 所 日：平成２年９月
・所 在 地：静岡市駿河区丸子3000－１
・提供サービス：①介護老人福祉施設／②通所介護（半日型）／③通所介護（１日型）／
　④認知症対応型通所介護
・定 員 数：①80名／②25名／③37名／④30名
・施設ＨＰ：https://s-seiwakai.org

※施設ＨＰはこちらから ⇒

養護老人ホーム　楽寿荘



【一言キャッチフレーズ】
「四季折々の風情を楽しみながら、
ゆったりくつろぎの時をお過ごしください。」

【施設概要】
・施 設 名：磐田市老人ホーム楽寿荘
・施設長名：熊切　峰男
・運営法人：社会福祉法人　遠江厚生園
・理　　念：『人は人として存在するだけで尊い。私たちは、ひとりひとりの人格を尊重して、
　個人の尊厳を守ります。』
・開 所 日：昭和27年６月１日
・所 在 地：磐田市安久路１丁目19番地２
・提供サービス：養護老人ホーム
・定 員 数：50名
・施設ＨＰ：https://www.tohtoumi-kouseien.or.jp/

※施設ＨＰはこちらから ⇒

介護の日街頭キャンペーン

11月11日の「介護の日」を中心に各支部で街頭啓発活動等を実施します！

○令和８年11月11日（水）午後には各地区で
実施しますので多くの皆様の参加をお願いします！

地区	実施場所	時間
東部	ＪＲ三島駅 北口周辺	15：30～
中部	ＪＲ静岡駅 コンコース	15：00～
西部	ＪＲ浜松駅 コンコース	13：30～



会員施設の皆様から「静岡ケアフォトコンテスト2026」にご応募いただいた写真の中から優秀賞受賞作品をポスターにしました。またすべての応募作品をムービーにしてYouTubeで公開しています。

今年のテーマは「笑顔のバトン～私のそばで輝いている人たち～」。素敵な笑顔の作品ばかりですので、是非ご覧ください！

ムービーはこちらから⇒

令和８年度老施協活動報告（令和８年７月１日～令和８年10月31日）

【老施協・会務運営】
★７月２日　浜松市への要望活動（正副会長等）
★７月３日　静岡県、静岡市への要望活動(正副会長等)
★７月28日　公明党県本部政策要望懇談会(正副会長)
★７月28日　正副会長会議会運営協議等
★８月26日　第２回理事会
令和８年度会長表彰受賞者の決定、防災訓練の実施案、介護の日啓発活動、第15回静岡県高齢者福祉研究大会等
★８月26日　県福祉長寿局との懇談会（県政さわやかタウンミーティング）
★８月26日　静岡市への要望活動(会長、中部支部長等)
★８月31日　浜松市への要望活動(会長、西部支部長等)
★９月14日　自民党介護議連への要望活動（正副会長等）
★９月14日　正副会長会議会運営協議等
★９月19日　片山財務大臣への要望活動(正副会長等)

【企画経営委員会】
★７月10日　第２回委員会
アンケート調査結果、要望とりまとめ
★８月27日　第３回委員会
各チーム活動状況報告、介護ロボット導入後の定着に向けた教育・研修等
★10月19日　第４回委員会
今後のDXの推進方策

【広報委員会】
★７月14日　第２回委員会
『しず老施協』第77号の企画等
７月30日～　給食調理に関するアンケート調査配布・集計

【研修委員会】
★７月８日　接遇マナー研修（シズウエル）
★８月３日　人材育成研修（リモート）
★８月27日　第３回委員会
接遇マナー研修等開催結果、10月及び12月開催の研修、県外施設視察研修等
★10月６日　第４回委員会
生産性向上セミナー、県外施設視察研修等
☆10月23日　生産性向上セミナー（シズウエル）

【次世代委員会】
★７月24日　第３回委員会
学生セミナー、「介護の日」啓発ポスター

【高齢者福祉研究大会実行委員会】
★７月30日　第２回委員会
発表のブロック分け、当日の分担表等
★８月27日　第３回委員会（合同委員会）
全体会議、班別会議
★９月16日　第15回高齢者福祉研究大会（プラサヴェルデ）

【災害対策委員会】
★10月14日　第３回委員会
令和８年度活動計画等

【養護委員会】
８月20日～　養護老人ホーム実態調査アンケート配布・集計

【特養委員会】
７月１日～　待機・入所状況調査アンケート配布・集計
☆10月27日　第３回委員会
県等への要望の経過報告、待機・入所状況調査報告書等

編集後記

広報委員会へ参加させていただいて３年になりました。私の自宅は山間地にあり、勤務先の施設は車で15分の、美しい山と川に囲まれたところにあります。４か月に一度、会議の折に静岡の中心地へ出向き、皆さんの興味深いお話しを聞くことがとても楽しいです。もっと自由に考えて、新たなことにも取り組んでいこう、という気持ちになります。日常業務に飲まれて、そこから行動へ移すことができていないのが課題です。

（クラナグ敦子）